

平成 28 年度派遣者報告書(抜粋)

(文系派遣生の報告書より)

今回の研修は語学力の向上、国際交流、異文化理解など、多くの点において有意義な研修となった。

まず台湾師範大学での授業についてであるが、平日は午前中に中国語の授業、午後は各自で選択した文化授業、校外授業に参加した。今回この研修に参加したのは約80人ほどであったが、言語授業は九つほどのクラスに分かれ、1クラスにつき10人前後で授業が行われた。初日にクラス分けの面接が行われ、自分の能力にあった授業を受けることができた。授業は中国語で行われ、教科書や板書には繁体字が用いられるが、そのような点は九州大学での授業ですでに慣れていたので特に問題なかった。私のクラスの先生は台湾師範大学出身の方で、37年間台湾師範大学に勤めていらっしゃる方だった。文法など間違ったところはその場ですぐに指摘されるものの、授業中にはリラックスするのが大切だということで、皆で好きなように会話をする時間を設けてくださり、また自分が表現したいことを言えるように誘導してくださった。

クラスのメンバーからも多くの刺激を受けた。私のクラスにはイギリス、マレーシアといった英語圏の方もおり、日本で中国語を学んでいるときに比べて、「中国語」というものの捉え方が自分の中で変わったように感じた。日本語は漢字を用いるという点で中国語と共通しているため、日本人が中国語を勉強する時には、「漢字」というものに依拠する傾向があるように思われる。しかし、漢字の文化ではない英語圏の方々には、英語の文法、そして「音」というものに依拠しており、特に中国語を「話す」能力に長けているように感じた。今までの自分の勉強方法を振り返ってみると、漢字の意味や日本語との類似点によってイメージを構築しているように思われ、「読み書き」、「聞き取り」の能力はある程度伸ばすことができていたが、「話す」ということに関しては、まだ中国語を自分のものにできていなかったため、彼女たちのように、文法を考えるとということに拘束されずに自分の言いたいことを表現するということが、見習うべき部分であった。間違いを恐れず、思い付いた中国語を表現してみるということは、言語を習得する上で重要なことであると感じた。これからも九大で留学生の方と交流する機会があるが、間違えることを恐れず、自信を持って話すということを心がけていきたい。

文化授業は太極拳、台湾茶道、台湾語を選択した。太極拳は日本でも練習したことがあったが、授業では今までにやったことのなかった「陳式太極拳」を教えていただいた。動きを覚えることができただけでなく、休憩時間に先生と中国語でお話することができたことがうれしかった。台湾茶道では阿里山烏龍茶の入れ方を教えていただいた。日本の茶道とは異なり、香りを楽しむためのコップがあり、一回の茶葉で7、8回入れることができ、お茶の味の変化を楽しむことができた。台湾語は声調が七種類あるということで、発音を覚えるのが難しかったが、リズム感があって面白かった。

また、私にとっては台湾に行くのも留学をするのも今回が初めてであったわけだが、その中で一番うれしかったのが、台湾の学生と仲良くなることができたことである。大学で開かれた交流会で知り合ったのだが、休日や午後に授業のない日などには様々な場所を案内してくださった。中正紀念堂、松山文創園區(日治時代に作られた建物)など、台湾の歴史を感じることができる場所をはじめとして、故宮博物院、台北動物園、猫空、象山、夜市などの観光スポットまで、様々な場所に行くことができ、見識も広がり、楽しい思い出にもなった。出かけたときには、日本人の友達と話すのと同じように中国語でたくさん会話することができた。最後の日に、一番一緒にいる時間が長かった方からお手紙をいただいたことがうれしかった。お手紙の中には、猫空に行ったときに「合菜(大勢で料理を取り分けて食べること)」を食べることができたことがうれしかったということが書かれていた。「合菜」は家族や親しい友達と、特別な日に食べる食事の形式であり、これを見て、短い期間ではあったけれど、

とても大切な出会いだったということを実感した。次に台湾に来た時には、故郷の台中を案内すると言ってくださり、これからも長く付き合っていけるような友達ができただけでなく、とても貴重な経験であった。

友達以外にも、文化授業の太極拳の先生と休み時間に中国語で会話したり、買い物をするときにお店の方と話したりなど、様々な人と関わることができた。もちろん、まだ相手の言っていることが理解できなかつたり、自分の言いたいことをうまく中国語にすることができなかつたりすることもあったが、それでも、日本語が通じない状況で何とかコミュニケーションをとろうとすることが、とても良い経験になった。

(理系派遣生の報告書より)

この短期語学研修を通して、語学を学んだことはもちろん、違う国の人たちと接して自分なりに考えたことや共同生活を通してえられた成長など、具体的に述べたいと思う。

はじめに語学についてだが、二年生になってから理系は中国語の授業がないので、巻き舌など正確な発音に不可欠な口の動きを改めて初歩から確認することができた。先生は発音が専門だったらしく、舌の位置をきちんと教えてくれた。文法についても、私たちのクラスはたくさんの例文を使っていく中で正確な習得を目指していたと思う。毎回の授業の中では、教科書に出て来る単語だけ出なく、日常生活で必要不可欠となる単語、皆がよく行く夜市のメニューなどを先生が教えてくれることが多々あり、覚えたものをその日のうちに応用できるという仕組みになっていた。また、新出単語についても自分たちで本文に出て来る文をつくらせたり、クイズ形式で答えさせたりと楽しく習得することができ、毎回の授業に楽しく参加しながら単語力も増やせたと思う。他にも勉強に対する姿勢として、毎日大体宿題が出ていたので、宿舎で勉強をする癖がついたし、授業に行くために春休みながら早起きができるようになったので、生活リズムの向上にも繋がった。また宿舎での生活において、一階のロビーのスタッフにトイレトーパーやボディソープをもらうために単語を調べたり自らが行動しなければならなかつたりする場面が多々あったことはコミュニケーション力の向上につながるいい機会だった。台湾に来て初めの方はかなり繁体字に戸惑うことがあったので、よく使う字の繁体字などは台湾に来る前に調べておいた方が良かったと感じた。

午後の文化授業では台湾茶道、太極拳、原住民舞踊を選択した。台湾茶道は使う道具の名前や用途の説明に始まり、実際に自分でお茶を作り、相手に渡しに行くという実践までできた。最後にはパイナップルケーキで美味しく乾杯しながら、お茶の心を学ぶことができた。太極拳ではゆっくりとした動きに初めは体力が追いつかなかつたものの、先生や皆と気を高めて太極拳の精神を学べたと思う。原住民舞踊ではその踊りがなされる場面や小道具の紹介に始まり、実際に歌と踊りを先生と楽しく学ぶことができた。歌の意味はわからなかつたもののアカペラで歌ってあの教室に響く感じが今でも心地いい感覚としてはっきりと覚えている。このように、日本とは違った文化に触れることで、よりその現地の人との距離が縮まったと思うし、台湾の文化をこのように実際に体験できて習得できたのはいい経験として今後も活かせると思う。

校外授業では九分、十分、三峡に行った。九分でも台湾茶道を体験することができ、自由時間にはチャイナ服を着て友達と中国の文化に触れることができた。十分ではランタンに願いを込めて空にあげることができて、その村の自然豊かな雰囲気にも包まれながら満喫することができた。三峡では日本とは違う原料を使った藍染めを体験することができた。また、午後からは定期的に交流会が開催され、そこでは日本の他の大学の学生たちや台湾の大学の生徒さんたちとお話ができ、頑張って中国語を使って話す機会となったので、良かったと思う。

休日は知り合った師範大学の学生に台北を案内してもらって、すごく充実した一日を送れた。LINE を交換することはこの留学で一番大切なことだと思った。LINE はもちろん中国語で文章を送らないといけなないので、作文の

練習となったし、向こうから送られてくる文面を理解するのに友達といろいろ考えあったことはとてもいい勉強になったと思う。移動中も積極的に中国語で質問をすることで、毎日の中に中国語を話す機会を作れたので、やはり大事だと思う。

また、いろんな場所に行くということも大切だと感じた。例えばスーパーなどに行くのと割引という意味の「折」という字を調べるきっかけにもなったし、注文したいメニューがあるからその単語を家で調べてくる、レストランで使えるフレーズを調べてくる、などといった行動に繋がるからだ。また公共交通機関などは、一度乗り方を覚えておけば次に旅行にきた時にも覚えているので何度も何度も利用して覚えるといいと思った。私はもう地下鉄にたくさん乗ったので一人で次にきた時にも困らないはずだ。

留学を経て、最近では中国の歌をよく聞くようになったし、これからも継続して勉強をして、いつかまたお世話になった学生さんたちと台湾であって話ができるようになりたいと思った。この留学の間は毎日中国語を聞いていたのでかなり耳が慣れてきたが、日本でもできるだけ忘れないように毎日中国語を聞きたいと思う。帰国後も宿舎での生活を思い出して、遅刻しないように早寝早起き、宿題をきちんとやることの習慣をつけたいと思った。

(理系派遣生の報告書より)

私が CLP-C のプログラムに参加しようと考えた理由は、1年の基幹教育で中国語の授業を受けて、中国語に興味を持ち、このプログラムで現地の方に接し、自分の語学能力を向上させたいと考えたからである。また、台湾は日本との関係も深く台湾文化についてもっと知りたいと思ったことがきっかけである。

事前講義では、先生の指示された短編を読み、台湾の当時の状況や台湾の歴史について考えるという内容であった。台湾は昔から様々な民族が複雑に入ってきていることを知った。日本統治時代や、国民党による統治など、そのような台湾の歴史を知ることで、台湾についてもっと理解することができると感じた。私がこの講義を聞く前まで知らなかったことも多かったので、講義からいろいろな知識を得ることができた。台湾には台湾の歴史があるということをしっかりと理解しなければならぬと思った。この講義があったおかげで、台湾と中国の違いを認識して三週間を過ごすことができた。

台湾に到着した次の日にテストがあり、クラス分けをして授業が開始された。私が台湾に来て一番に感じたことは、中国語で文を書くことはできても、聞く力や、話す力が足りないということであった。これまで、中国語の授業を受けていて文法の理解はできていても、それらを使って自分の思いを伝えるということは本当に難しいと感じた。現地に行って、現地の人の話すスピードも、日本での授業より格段に速く、最初の頃は理解することができなかった。私は B クラスで授業を受けることになり、最初は基礎から始まった。授業は、教科書の単語、文法、本文の内容を理解するように進められた。新しい単語が出でくるときに、その単語を使って自分で文を作るということを毎回の授業で行われた。最初は、難しかったが、慣れてくるとだんだんいろいろな文が作れるようになり、この練習は中国語の力をつけるのに本当に役立ったと感じた。講師の先生も、授業の中で台湾についていろいろなことを話してくださったので、本当に楽しい授業であった。また、授業は毎回中国語で行われたので、常に中国語を聞いているという状態だったので、私が苦手としていた中国語を聞く力が前よりも格段に上がったと感じられた。最初の頃は、話の内容があまり入ってこなかったが、だんだんと聞こえるようになり、勉強をすることが楽しくなった。クラスも9人と少人数で、自分に合ったペースで授業が進められた。授業が終わるころには、簡単な会話ができるようになった。この CLP-C の研修に参加したことを通して、現地に行ってその現地の言葉を聞くことと、最初は失敗しても自分の言葉で話すことの大切さを、とても実感した。

午後には、文化体験の授業を通して台湾の文化を学んだ。私は、篆刻、台湾茶道、切り絵の授業を受講した。

特に印象に残っているのは、台湾茶道の授業である。日本と台湾の茶道は全く異なるものであり、文化の違いを感じた。台湾の茶道では、茶杯が二種類あり、一つはお茶の香りを楽しむものであり、もう一つは、お茶の味を楽しむものである。今回の授業では、阿里山高山烏龍茶というお茶を飲んだが、このお茶も日本の烏龍茶とは全く味が異なっていてとても驚いた。同じ烏龍茶でも日本と台湾では気候が異なるので全く違う味が出るのだということが分かった。日本と台湾ではいろいろな文化の違いがあり、戸惑うこともあったが、他の国の文化を理解し受け入れることはすごく大事なことだと感じた。

また、校外文化体験の授業もあり、十分、九分、三峽に行った。十分は、ランタンに願い事を書いて、空に飛ばした。夜空に飛んでいくランタンはとても綺麗だった。三峽では、藍染の体験をした。藍染の文化は日本にもあうが、台湾と日本では、藍染に使う原料が異なり、台湾の藍染は品質が良いということを学んだ。染めたい布を折り、ゴムや板で布を縛り原料につけ、開くとその模様ができあがっていることにすごく驚いた。この文化体験と校外体験で、授業の中だけでは学べない台湾の文化を学ぶことができた。

この三週間の中に九州大学の台湾同窓会にも招待された。同窓会の方たちが私たち CLP 派遣学生のために用意してくださった講義では、台湾の原発について学んだ。台湾の原発は2025年までに完全に廃止され新しいエネルギーに変えられることを初めて知った。これは、日本の福島原発の事件が大きいかかわっているようだ。この福島原発は日本だけではなく、世界にも大きな影響を与えていて、台湾は実際に行動を起こして日本も早く解決策を考えるべきだと感じた。その後には、食事会でロバートファンさんとお会いして話を聞くことができ、とても貴重な経験になった。

この CLP-C のプログラムに参加して、中国語の語学力を以前より伸ばすことができ、さらに台湾現地に行くことで、自分の言葉がなかなか通じないということも実感して、もっと勉強が必要だということも分かった。台湾の学生さんと会話をして、海外から見た日本の印象も聞くことができた。今の時代は情報を簡単に手に入れることができるが、実際に自分で体験してみないとわからないことがたくさんあるということを実感した。以前よりも海外の長期留学についてもっと興味を持つことができ、チャンスがあれば、長期留学に行ってみたいという気持ちが強くなった。日本の中にいるだけではわからなかったことをたくさん得ることができた三週間であった。中国語の勉強に対する意欲も上がって、次に台湾や中国に行く機会があれば今回よりも、ムーズに現地の方と会話ができるように語学力をあげていきたい。これからも中国語の勉強を続けてこれからの大学生活に生かしていきたい。